

今夜・10月15日(土):午後6時～

市浜地区コミュニティセンターにて開催!

# 『二孝女物語』口演会

- 対象児童  
:小学生高学年以上
- 口演内容  
:講談「二孝女物語」
- 口演時間  
:1時間程度
- 対応人数  
:各会場施設に合わせ対応



曰杵市野津町出身  
いちりゅうさい ていや  
**一龍齋貞弥**

病父を尋ねて  
三百里。  
孝行姉妹が  
命を懸けた  
旅路の末に  
人情豊かな  
江戸が見える。  
豊後国と  
常陸国を  
結ぶ、壮大な  
奇跡の物語。

この物語は、江戸時代後期の文化八年(一八一二)に、豊後国曰杵(現大分県曰杵市)の若い二人の姉妹「つゆ」と「とき」が、親鸞聖人の遺跡巡拝の旅の途中に病気になる、青蓮寺(現常陸太田市東蓮寺町)で世話になっていた父(初右衛門)を迎えるために、約三百里(約1200km)離れた常陸国の青蓮寺へと向かうお話です。

二人の姉妹は、曰杵から青蓮寺までの2ヶ月、旅の途中で出会った人たちの手助けで、盗賊から身を守られたり、関所を無事に通過したり、様々な奇跡を乗り越えた末に、七年ぶりに父と会うことができました。つゆが二十二歳、ときが十九歳の時でした。

そうした姉妹の父親思いの行動が、水戸藩や曰杵藩の共感を呼び、様々な支援を受けて、翌文化九年(一八一二)春、無事に親子三人で帰国を果たしました。姉妹の地元である曰杵市では、小学校の校歌にも歌われるなど、親孝行物語の美談として語り継がれています。

平成十七年に青蓮寺で、曰杵藩江戸屋敷から青蓮寺宛の手紙や姉妹からの礼状など十七通の書簡が発見され、この物語が史実であるとわかりました。

皆様のご参加をお願い致します。

市浜地区振興協議会